

修道学区では、戦争を体験した人が年々少なくなる中で、同学区の馬町地域であった空襲の歴史を風化させないようと、1945年の空襲と同日の1月16日、「馬町爆撃を語ろう会」が元東山小学校で開かれました。

撃など京都の戦争被害や町の人への取材などを収録したDVDとどけられた遺書一語りつぐ京都の戦争」を上映しました。

その後、参加者の方々から馬町空襲の体験が次々に話されました。

「語ろう会」参加者の声

・当時は京都幼稚園に通っていました。園庭に爆弾が落ち、空襲翌朝、園へと続く渋谷道が警察などに封鎖されていました。

・当時は小学2年生でした。

馬町地域で火の粉が空高く舞い上がっていました。小学校の同窓会でも、空襲と集団疎開のことはかりが話題になり

ます。

・当時は小学5年生でした。前もって学校ではレコードでB29の飛行音を聞かされており、すぐに空襲だと気付きました。馬町地域が赤黒く燃えていたのを覚えています。

体験談の後には、空襲の爆風で大きく亀裂が入った板戸も紹介され、参加者の皆さんの断片的な記憶も徐々に甦り、改めて学区の歴史を次の世代へと語り継いでいく必要性を共有しました。

問合せ 区総務課（☎581・9105）

